



東日本大震災を振り返る「いのちの日」全校集会

今年は東日本大震災と原発事故から12年となります。本校では10日(金)に「東日本大震災を振り返る『いのちの日』全校集会」を行いました。集会はオンラインで行い、校長から、12年前の浪江町立請戸小学校で全ての児童と職員が無事に大津波から避難できたことを、震災遺構として校舎の公開が始まった当校のホームページの映像資料をもとに話しました。

その中で、震災当時の請戸小学校6年生と、当時の教職員の方のインタビューを紹介しました。請戸小学校の上級生の子どもたちが自主的に下級生の手を引いて励ましながら避難したこと、普段から全校生の交流が盛んで仲良しだったからこそ、誰に指示される訳でなく、上級生が自然と下級生の子を守って囲むように歩き全員無事に避難できたこと、自然災害は必ず起こるのでいざというときどのように行動するか考えておくことが大切であること、などの言葉を伝えました。そして、話の終わりに福島民報社発行の「東日本大震災 ふくしまの30日」の冒頭の詩を紹介しました。



↓福島民報社「東日本大震災 ふくしまの30日」より

プレゼンテーション資料↓

大地が揺れ、海が黒い壁になった。(中略)

当たり前だと思っていた風景が全てさらっていった。だれもが心の中で叫び、泣いた。だが、運命は本当のことも教えてくれた。

食べ物も、痛みも、人は分かち合えるのだ。

見ず知らずの人のために、涙は頬を伝っていた。

人は人を思っでこそ人になれる。そしてその涙は温かいのだ。

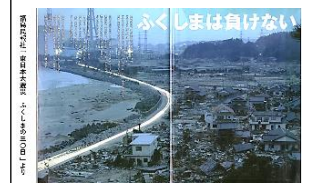
生き残った者にできることは何だ。

離れた心を再び一つにするためにするべきことは何だ。

顔を上げ、今を目に焼き付けよう。手と手を結ぼう。

福島は負けない。

笑顔も、実りも、古里も、必ず我が手に取り戻す。



集会の最後に、全員で黙とうを捧げました。これからの未来、これからの福島をつくるのは、子どもたち一人一人です。12年前の東日本大震災と原発事故について、かけがえのない命について、復興への努力とこれからの未来について、一人一人の子どもたちに真剣に考えてほしいと願っています。





令和4年度 郡山市立緑ヶ丘第一小学校だより

令和5年3月15日

学校便り No.49

文責：校長 新田直子

みどりっ子便り



みどりっ子の活躍をみんなで讃えました～全校集会・表彰～

3月10日（金）全校集会の時間に、これまでの子どもたちの活躍の表彰を行いました。各種の入賞者については以前の学校便りでお知らせしたとおりです。大きなトロフィーや盾などの副賞もたくさん届いていましたので、それぞれ代表のお子さんに全校表彰でお渡ししました。全校生から、大きな拍手が贈られていました。賞状や副賞を順次お子さんが持ち帰ると思いますので、一人一人の頑張りを大いに褒めていただきたいと思います。



今年度最後の読み聞かせ～ありがとうございました！～

3月9日（木）、朝の読書タイムの時間に、読み聞かせボランティア「絵本の窓」様による今年度最後の読み聞かせ会を、高学年とひまわり、たんぽぽ学級で行いました。どの学級でも、楽しいお話の世界に瞳を輝かせて聞き入っている子どもたちの姿が見られました。

読み聞かせ会の最後には、絵本の窓の皆様にも、心を込めてお礼を伝えたり、お礼のお手紙を渡したりする姿が見られました。今年度も、楽しい読み聞かせを、ありがとうございました。



「安心・安全」な放課後の過ごし方を！

日に日に春めいて暖かい日も増えてきました。昼休みは校庭で楽しく体を動かす子どもたちでいっぱいです。放課後なども近くの公園などで遊ぶ機会が増えることと思います。学校では生徒指導担当や各担任から、公園など公共の場所での遊び方などについて、ルールやマナーを守ってすべての人が気持ちよく過ごせるよう指導を行っています。安心・安全な放課後の過ごし方について、ご家庭でもお子さんにお話しくださるようお願いいたします。

- 道路（特に公園周りの道路）で遊ばない。 ○石や物を投げない。
- 狭い公園ではボール遊び（サッカーや野球、ドッジボールなど遠くに飛ぶ危険性がある遊び）は控え、小学校の校庭など広い場所で行う。
- ごみを捨てない、公共物を大切に使うなどのマナーを守って遊ぶ。
- 自転車はヘルメットを着用し、交通ルールを守って乗る。